

ビーチバレーの普及と発展に関する考察 ～クラブが果たすべき役割を中心に～

A study of popularity and the growth of Beach Volleyball

1K06B160

指導教員 主査 宮内孝知先生

中出陽介

副査 作野誠一先生

1 本研究の動機、目的

私は大学で初めてビーチバレーという競技に出会い、クラブが開催する一般参加型の大会に多くの人々が参加する様子を見てきた。それはスター選手の登場でビーチバレーの認知度が上がったことによるが、それでも全国的に見ると、ビーチバレーが広く普及しているとは言えない。競技人口の増加や、ビーチバレーの発展には何が必要であるのか。課題や問題点を考察し、そして今後のクラブの役割を明らかにすることを本研究の目的とした。

2 各章の要約

〔第1章〕

諸外国においてビーチバレーが普及した要因を明らかにするために、その発祥や、アメリカを中心とした歴史を概観した。発祥の地は1920年代のカリフォルニア州サンタモニカであり、1996年のアトランタ五輪開催の頃には世界にビーチバレーが広まっていた。ビーチで休日過ごす文化や数多くのビーチバレーコートの設置、メディア露出の成功、プロ団体 AVP の設立といったことがその要因であった。

〔第2章〕

国内におけるビーチバレーの現状を取り上げた。第1節では競技の実施状況を取り上げ、選手登録の仕組みと日本ビーチバレー連盟主催の主な競技会について述べた。第2節ではレジャーとしてのビーチバレーを取り上げ、クラブの活動に注目した。湘南では3つ、東京では1

つのクラブが活動しており、それぞれに対象とする参加者に違いが見られた。第3節ではビーチバレーコートに注目した。ビーチバレーが盛んな神奈川県でも4箇所しかコートは設置されておらず、全国的に見るとコートが設置されていない県もあるのが現状である。

〔第3章〕

日本のビーチバレーに関する課題について考察した。第1節では海水浴の文化に触れ、夏場海水浴に行く日本と年中海で日光浴等をして過ごす欧米との文化の違いを明らかにした。第2節では施設について触れた。全国にはまだビーチバレーコートが少ない。しかし日本は島国であり全国に数多くの海岸があるため、その有効活用が重要である。またそれだけでなく、川原や公園といった場所にもコートの設置は可能だと言える。第3節ではクラブに関する問題を考察した。クラブが大会を開催するにはある程度のコートの確保が必要であるが、それが他の一般客の利用を制限することもある。また、全国的にクラブの数が少ないことも課題として挙げられる。第4節では日本ビーチバレー連盟の政策について考察した。中でも、新規国内大会の充実が今の日本のビーチバレーには重要である。

〔第4章〕

ここまでの内容を踏まえ、クラブの役割について考察した。海辺の文化の創造、より多くの人々がビーチバレーに触れられる機会づくり、クラブの活動を通じての競技力の向上、さらに、

将来的には独自の競技会の開催等を行えることがクラブに求められる役割とした。

〔終章〕

海辺の文化の創造を中心とし、季節を問わず多くの人が海に訪れることでビーチバレーやその他ビーチスポーツの環境整備が図られるはずである。それに伴い、競技者と愛好者の交流によって、指導者不足に悩む若い世代の育成、競技としてのビーチバレーの底辺拡大がなされ、加えて、クラブによる競技選手を対象とした大会の開催が実現すれば、ビーチバレーの発展はそう遠くはない。以上を本研究の結論とした。